

教科	社会	単元名	うつりかわる市とくらし
----	----	-----	-------------

本時のねらい

時代による道具の移り変わりを知ることで、昔の様子や人々のくらしに関心をもつことができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・いろいろな道具が昔から今にかけて姿を変えてきた写真を配付することで、今の道具と比較してそれぞれの良さに気づく。細かな部分まで注意深く観察して、くらしが便利になったことや使いやすさを考えて人々が努力してきたことなどに関心をもたせる。
- ・1人1台端末を活用することで、考えたことを即時に共有し、物事について多面的に考える。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット端末 (iPad) ・AppleTV ・授業支援アプリ(ロイノート) ・電子黒板

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・『わたしたちのまち池田』にある昔の道具を見て、道具の使い方を想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に昔の道具を大きく提示することで、想像しやすくする。
昔と今の道具をくらべよう。		
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・「昭和 45 年頃（暮らしが便利になり始めたころ）」から「今」までの洗濯機・炊飯器・エアコンの写真を、古いものから順に写真を並べ替える。 ・「昭和 45 年頃」の道具と「今」の道具の違いについて考え、話し合う。 ・昔の道具と今の道具のメリットとデメリットについて考え、ロイノートのテキストカードに、提出して交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の道具の写真をロイノート上で配付し、古いものから順に洗濯機、炊飯器、エアコンを並べ替え、できた児童から提出箱に提出させる。 ・電子黒板に、それぞれの道具を大きく提示しながら違いを共有することで、使いやすさや使いにくさに気づくようにする。 ・タブレット上のテキストカードに道具のメリット・デメリットを記入させる際、教科書やインターネットを活用し、それぞれの道具の使い方や使う人の様子を調べてもよいことを伝える。 ・提出箱を共有することで、「昭和 45 年頃」「今」のどちらにも、それぞれの道具についてメリットやデメリットがあることに気づかせる。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・この学習を通して初めて知ったこと、考えたことをふりかえりに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット上でふりかえりを共有する。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



導入で電子黒板に昔の道具を提示している場面



道具の変化の順に並び替えている場面



「戦争が終わったころ」の道具のメリットと、「今」の道具のデメリットを共有している場面

児童生徒の反応や変容

導入では、電子黒板を用いて昔の道具を一つずつ見せていくことで、生徒はどんな使い方をするかを話したり、次はどんな道具が出てくるのかを予想したりしながら学習に入ることができた。時代順に道具を並べ替える活動は、道具の様子に着目しながらすぐに並べ替えることができた。「昭和 45 年頃の道具と今の道具は、どんなメリットやデメリットがあるのだろう」と発問すると、多くの児童は、昔の道具のデメリット、今の道具のメリットを書き出していた。しかし、提出箱で共有することで、昔の道具にもメリットや今の道具にもデメリットがあることに気づき、「あ、確かにそうだ」「昔の道具にもいいところがあるね」と自分では思いつかなかった意見に共感し、道具を多面的に見ることができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ロイノートの提出箱を共有した後の児童の声から、共有機能の良さを改めて感じた。自分で一生懸命考えていたからこそ、新しい考え方にふれた児童の反応がよく、学習の深まりを実感することができた。自分の考えだけでなく、他者の考えにふれることで、児童の考えようとする意欲が上がることを実感した。